

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171000282		
法人名	株式会社 寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム八潮		
所在地	埼玉県八潮市緑町1-12-8		
自己評価作成日	平成31年 1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年 3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	平成31年 1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内の安全管理、地域との連携に努めている。近隣医療機関との連携を密に取り迅速な受入れができるよう働き掛けている。日常的に玄関にはカギを掛けずに近隣の散歩・日光浴に力を入れ、花壇での作業、玄関前でのお茶会などで仲間意識のもてる会話作り力を入れている。利用者様が自由かつ安全に出入りできるようさりげなく見守りに徹底している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、利用者が慣れた職員と安心した生活を継続できるよう、職員の働きやすさへの配慮として、職員の不安や心配事にも寄り添うことに努めている。職員が大事にするベットの事を一諸に心配したり、体調の心配ごとがあれば休みを調整し、有給休暇の使い方の工夫もおこなった。利用者支援においては、不適切ケアに関する研修を定期的実施している。つい言ってしまうがちな「ちょっと待って」の言葉が、言葉の拘束にあたることを理解して、待つ欲しい時にはその理由を伝え、戻ったときにはお礼の言葉を添えることで制止感を与えないよう努めている。利用者が生き活きと生活できるよう、利用者個々の好きな事、興味のあることは、アセスメント情報に加え日々の言動からも把握し、利用者が得意なことや好きな事を継続できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1・利用者様が笑顔で居られるように不安を軽減し不安にさせません。2・施設・職員にとって都合の良い介護は行いません。申し送りの時職員一同で唱和をし意識付け、新職員には理念説明をしている。	事業所の理念は、職員がケアの方法に対して、疑問を持ったり迷ったりした時に振り返り、判断する基準としている。共通の判断基準を持つことで、職員が同じ方向を向き、初心にもどることができると考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域行事への参加、散歩や買い物または地域傾聴ボランティア等に参加する機会を設け、地域の一員として交流をしている。	近所の生涯学習施設は子どもからお年寄りまでが多目的に寄り合い、交流する場であり、利用者も地域の一員として、イベント見学や昔の遊び等で利用している。散歩途中に昔の畑仕事を懐かしむこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や家族会または地域イベントに参加する機会を設け、ホームの理解を得ている。散歩の時など、近隣の方と挨拶や会話を交わしふれあい、認知症への理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、近況報告を行うと共に業務や運営に関する意見や要望等の意見交換を行い、その内容は業務カンファにて職員に伝達し適宜改善するようにしている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。地域情報に詳しい民生委員からは、防災関係や地域行事についての情報提供があり、利用者の外出の参考にしたたり、事業所運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、入居状況などの報告に伺い、相談や助言を頂きながら質の向上に活かす等、常に連携を取りながら施設運営を行っている。	市からの連絡は、メールでの配信が多いが、運営推進会議議事録の提出やオムツの申請等市窓口へ多く訪問している。市からの介護相談員に利用者の「どこへ行きたい」などの要望を聞いてもらえる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	接遇マナー向上・身体拘束廃止委員会を設置し事例等を用いレポート提出をしながら、気付きにくい拘束等の勉強会を行ない、知識と対応方法の習得に取り組んでいる。	2ヶ月に1回不適切ケアについてのアンケートを実施し、事業所内研修をしている。日々のケアを振り返り、事例をあげて拘束についての理解を深めている。言ってしまうがちな「ちょっと待ってて」に対しては、待ってほしい旨の説明を加える工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇マナー向上・身体拘束委員会を通し、「不適切ケア」について職員一同話し合いの場を設け、利用者様に対し、尊敬の気持ちを持ち接しなければならぬ事、言葉一つからも虐待に繋がる事を伝え防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は必要とする利用者様がいない為活用されていない。講習会などに参加し、学習の場を設けるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に出来る限り利用者様やご家族様に見学をお願いしている。契約時に契約書等だけでは分かりにくい箇所については別紙を用いて納得できるように説明をし理解をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の表情・仕草から情報を得る。また面会に来られたご家族と話をする際に、利用者様の様子を伝え、意見や要望を頂き、改善に努めている。	家族とは、面会時や電話で話し、要望を聞くことが多い。毎月手紙を送付することで、事業所の様子を知ってもらい、関心を持ってもらえるよう努めている。利用者からは、外出等の希望があり、行事に反映させている。	家族への連絡方法等を検討し、より深くコミュニケーションをとりたいと考えている。家族との連携を強め、利用者支援に活かせることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見の言い易い職場作りを心がけ、業務カンファ等でよい提案・意見を反映させている。	職員からの意見、要望は、主に申し送りノートや会話から把握している。管理者は、何気ない雑談の中で、職員の心配事を気にかけて、体調不安等がある場合には、休みの調整をし、有給休暇の使い方に配慮をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社負担での講習や各種資格手当を設けると共に、休日日数(年間120日)や、シフトの融通性をもって、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修でも、必要であれば場合によって会社負担で講習に参加出来たり、OJTとして先輩職員が直接指導を行い、なるべく個々の能力や希望に添うように機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所が主催している市内グループホームの会合に参加し、事業者同士の連携を図り入居者の受け入れ先の相談などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実地調査時の実態状況を把握し、心配なことがあれば説明をし納得して頂けるまで話し合い安心して頂けるよう努める。行動や表情の変化を見守り声掛けを行い信頼をして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望や相談を伺い適宜な助言、提案をさせて頂き、意見や要望など話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態やご家族様の心境などに配慮し、前もって施設要望書を用い思いを記入して頂き、サービスを開始している。対応のできないサービスについては、社外のサービスを提供させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様毎に出来ることを見つけ、掃除や料理の手伝い、レクリエーション等を一緒に楽しむよう心掛け、家族の一員として生活を共にする者同士の関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子をご家族に伝え、ご家族と一緒に考え介護を行う。職員一同が共有し職員誰でもがご家族様と話ができるようにしご家族様の思いを利用者様に伝えご家族様と利用者様との関係構築に心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き付けのお店などに買い物に出掛けられるよう支援をしている。ご家族や友人の訪問は、居室にて対応。地域傾聴ボランティア来所時、フロアにて、利用者様のお知り合いも多く、昔話を楽しまれておられる。	家族と一緒に帰宅したり、墓参りなどに出かけている。クリスマス会や敬老会など家族も参加できる行事を計画し、家族と一緒に過ごせる時間を大事に考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、日常会話やレクリエーション時には職員が加わり、孤立のないよう皆で交流し合えるよう良い関わりが出来るよう支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者様やご家族にも今迄同様、行事のお誘いをしたり、退去後の様子を伺ったり、場合によっては相談に乗り助言をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様と話をし困っていることや希望等を伺い把握に努めている。話の難しい利用者様については、仕草や表情などから察し、その時に最適と思われる支援を実施している。	アセスメント情報に加え、日常の会話や行動から、要望を聞き取ったり、興味がありそうなことを考えて支援に活かしている。テレビを観ながらの会話から「初詣に行きたい」との声が出て、初詣への外出に繋がった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサマリーや既往歴、またはご家族等からの情報を活かし、さらに利用者様の話の中から今までの生活を把握し、生活援助の参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様毎の心身状態の変化に気を配り、日々の申し送りやケアカンファなどで検討し、ケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にはまたは必要に応じてケアカンファを職員と共にしている。ケアマネージャーが中心となり、ご家族からの意向も聞き入れ介護計画を作成している。	介護計画作成時は、利用者の継続してきたことやできることを考慮し、何をしたら楽しいかを考えている。カンファレンスに参加できない職員からは、事前に意見を聞き、複数の職員の意見を反映させるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別生活記録に記入。申し送りノートを活用し、常に職員間で情報を共有しながら実践の見直し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々起こりうる病院受診や買い物など同行対応し、可能な限り利用者様が満足して頂けるよう工夫をしている。また当施設で不可能な場合はご家族様に外部事業者を紹介し利用検討して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽習館で行われたイベント等やケアセンター八潮で行われたオレンジカフェや夏祭りに楽しく参加できるよう支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診・週1回の訪問歯科の医療支援を実施。地域馴染み深い病院のため利用者様、ご家族及び当施設は安心をし医療を受けている。	現在は、全員が訪問診療を定期的に受診しているが、希望があれば、かかりつけ医受診を継続することもできる。体調不良の際は、医師に相談し、必要時には提携病院の送迎を利用して、職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的訪問看護師により、利用者様の情報共有に努め、随時、助言・指導を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して頂けるよう職員が面会に行き病院関係者との情報交換や相談に努め、退院時の受け入れがスムーズに出来るよう連携を取り、さらに退院後の指導を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期医療を視野に入れ当施設で出来る事、出来ない事を明確にした上で方針をまとめ、ご家族への説明や入居者の希望を伺い実施する。現状は個々の状態に添った支援を、ご家族や医師と相談しながら決定している。	入居時に、重度化した場合の指針について説明をしている。入居後も、利用者の状態に応じた説明を行ない、不安をもつ家族には、それぞれの困っている部分について、一緒に考え安心してもらえるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、応急手当・防災救命時の訓練に参加し、普段から実践できるように取り組みをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時職員対応のための連絡網を作成。定期的消防署立ち会い、夜間設定を含む避難・通報訓練・消火器使用方法を行い助言を頂いている。また消防署が近隣にあるため安心である。	年2回避難訓練を実施している。昼、夜想定にて、主に火災を想定した通報、消火及び避難誘導の訓練を行う。毛布や食料等の備蓄は、ユニットごとに備えており、水害時には高層の近隣施設との連携を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様毎の今までの生活環境や生き立ちを理解し、尊敬の気持ちを持った声掛け・傾聴しながら、日々の生活を支援している。また職員間での情報共有の際、利用者様に聞こえないよう気を付けている。	研修で、排泄や入浴時の介助における羞恥心への配慮や声掛けの仕方について学んでいる。利用者本人の自尊心を損ねないよう、着替えや食事介助の際は、他利用者からの視線が気にならないよう配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は随時、利用者様の思いや希望を受け入れられるよう信頼関係構築に心掛け、職員の強制による自己決定にならないよう声掛けに気を付け表情・仕草からも思いをくみ取り、自己決定できるよう支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日程は決まってはいるが、理念にあるよう職員本位にならないよう、利用者様毎、その日の希望に添いながらゆったりと自由に時間を過ごして頂けるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族のご協力を頂き、四季に合わせたご自宅にある洋服をお持ち頂き、外出時や当施設内での行事の際、装いやお化粧品にも気を配れるよう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳後、利用者様に献立を説明し皆で「頂きます」をしている。賄いは職員中心ではあるが食前・食後のテーブル拭きなどできることをしている。	利用者の食べたいものは、行事食やおやつで対応している。行事の際は、季節感のある食材を使ったり、食器、盛付などの工夫をして、目でも楽しめるようにしている。畑の収穫野菜を味噌汁の具材として利用した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様毎の健康状態に配慮し、水分摂取量や召し上がられる食事量を調整し、さらにその日の体調や献立に合わせてお粥や刻み対応し栄養、水分量の確保ができるよう支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様毎の能力に応じご自身で口腔ケアを行って頂き、その後職員が確認、不足しておられる部分の手伝いをさせて頂き、清潔保持に努めている。訪問歯科医と連携し相談・指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを読み取り、また利用者様の表情や仕草をくみ取り声掛けトイレ誘導をし、トイレで気持ち良く排泄できるよう支援に努めている。	排泄表でタイミングを把握し、個々に声を掛けている。転倒リスクの高い方には、立ち上がりから声を掛け、職員が同伴してトイレで排泄できるようにしている。トイレの場所がわかるように絵の表示もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様毎の排泄パターンを把握し、適度な運動・水分量・食事などに気を付け便秘の予防や自然排便ができるように心掛けている。牛乳やヨーグルトなども摂飲を試みている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当施設内での入浴時間に制限はあるが、希望によりいつでも入浴の出来る体制を整えている。入浴拒否がある場合は無理強いをせず出来るだけ本人の希望やペースに合わせて入浴できるように努めている。	「湯船にゆっくり入りたい」等の希望に合わせて支援している。1対1での会話は、昔話を楽しんだり、ストレス解消の時間となっている。入浴回数を見ながら声を掛け、足浴や清拭での清潔保持もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて温度調整すると共に、冬季には加湿器または濡れタオルなどによる、室温調整をしている。生活リズム作り心掛け状況を見ながら休息の声掛けをさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の指示のもと、処方内容、処方変更及び往診受診内容を、各個人別に受診記録を記入し職員全員が把握できるようにし、処方変更投薬後の体調変化に十分注意をし、記録を残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様毎の出来ることを把握し、その時の体調や気分に合わせて、無理の無いよう能力や嗜好に合ったレクリエーションの提供を考え参加をさせて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時、玄関前にて外気・日光浴をしている。天候・体調に合わせて散歩をしている。ご家族様のご協力を得ながら美容室や外食、ドライブに出掛けて頂いている。	暖かい日は、玄関先でひなたぼっこをし、近所一周、生涯学習施設の見学等に出かけることもある。生涯学習施設では、イベント見学の他、展示物を見たり、地域の子どもの遊ぶ様子を見たりして、地域の人々と交流している。桜の季節には花見に出かける。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の要望や能力に応じ、問題が起きないように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様及びご家族の協力・希望があれば電話などをいつでも掛けたり、とりつないだりしている。また、手紙も希望があれば投函に支援を沿っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には季節の花、畑には農作物を育て収穫をし、年間で楽しむことが出来る。季節・風物詩のわかるもの、利用者様の作品等を廊下に掲示をし目でも季節を感じて頂けるように工夫をしている。	共用空間の壁面は、季節を感じられるよう工夫し、居室入口の表札は、個々の特性に合わせて職員が作ったものである。利用者の座席は、利用者が穏やかに過ごすための環境として重要と考え、相性やテレビの見える位置等を考慮して決めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチを設置し自由に外気浴できるようにしている。またフロア席にも入居者同士の関係を考慮し居心地の良い場所としての提供に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の際に愛着のある家具や使い慣れたものを持ち込んで頂き、思い出のあるご家族様の写真や絵などを飾る。居室担当職員による季節感を感じて頂けるよう工夫に努めている。	入居時は使い慣れたものを持ち込みし、配置は家族と利用者で相談して決めてもらっている。引出しや一面鏡、趣味の本、ラジオ等を持ち込み、昔からラジオで健康情報を聞く習慣を継続している人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険と予測されるものを排除し、安全に自立した生活が行えるよう環境づくりに心掛けている。居室入り口やトイレなどに利用者様が分かりやすいように、名札やポスター掲示などを表示している。		